

と き うたの生まれる瞬間を探って

— 中学生の心に響く合唱曲を求めて —

松井孝夫

そもそも私がうたを作るようになったのは、小学校の頃デタラメに笛（ソプラノリコーダー）を吹いているうちに、自分なりに好みのメロディが創れて、それを喜びに感じた時からである。以来、楽器に興味を抱き、オカリナ、大正琴、フォークギター、クラシックギター、バイオリンなどをすべて独学でたしなんでいた。根っから音楽が好きだったことは、言うまでもない。が、しかし正統的な音楽の早期教育を受けていたわけでもない。独り善がりの道楽のようなものだったかもしれない。いずれにしても、そういった楽器と親しむ中で、うた心が少しずつ育まれてきたようだ。私の感性が最も豊かな頃は、70年代でフォーク全盛期。小椋佳、さだまさし、吉田拓郎、井上陽水などといった錚々たるミュージシャンが活躍していた。今にして思えば、私の創るうたの源はここにあった。それに加えて、私が音楽の道に進もうと決定づけるきっかけとなった大きな出会いがあった。それは、中学3年の頃、1年間NHK教育テレビの「バイオリンのおけいこ」という番組に初心者として出演した際、外山滋氏という偉大な音楽家と身近にふれあうことができたことである。多感な中学時代は、このようなすばらしい出会いのうちに過ぎていった。高校に入って改めて音楽の基礎から学び、そのかわり、弾き語りや作曲うたを作った。大学では、作曲を選修としていたので、バイオリンソナタ、フーガ、木管五重奏、弦楽四重奏、管楽器など多種多様の曲を手掛けた。そして、公立中学校の教員となり、うた作りとはしばらくの間、縁遠くなってしまった。しかし、ふたたびうた作りを始めるきっかけとなったのは、当時やっていたボランティアだった。誰にでもすぐに口ずさめそうなうたを作ろうというのが、第一目標で生まれた曲、それが「マイ バラード」だった。最初は、そんなどこにもあるようなモチーフから出発したうた作りであったが、少しずつ中味が変わっていった。それは、目の前にいる中学生の気持ちと自分の気持ちをダブルさせて、詩のイメージを描き、うた作りを進めてゆくことで、歌手や聞き手の心により響くものとなったようだ。そんな中で、遠方より嬉しい便りや感想文が届いた。私自身、これだけ多くの人たちからの共感や感銘の言葉を聞くことに驚いている。そこで、「マイ バラード」からスタートした私のうた作りの変遷をたどり、うたの生まれた背景や、そのうたへの思いをもう一度振り返りながら、うたの生まれる瞬間を探っていきいたいと思う。以下、12の作品をうたうにあたって（あるいは指導するにあたって）のポイントを記してゆく。

「マイ バラード」

私は、教員という仕事のかたわら、地域のボランティア活動をしています。その活動の一つとして、音楽〔器楽合奏や合唱〕を障害を持つ人たちとともにやっています。そこで、誰にでもすぐに口ずさめるような歌はないかと思い、この曲を作りました。そのようは背景において、障害者も健常者も同じ仲間として生きているんだ。悲しい時もつらいときもみんな心をつなげて、歌を歌えば心はなごみ、何か新しい力が湧いてくる。歌は心の叫びだ。さあみんな世界に届くように、高らかに大きな声で歌おうという内容の詩が浮かんできたわけです。歌が始まってからの16小節は、言葉を語りかけるように、一つ一つ大事に発音して歌ってください。「心燃える」からの三連符が続くところはリズムにのって、身体ごとビートして、盛り上げていって、曲の頂点である「きらめけ」にもっていかけてください。したがってテンポも「心燃える」から徐々に速くしていき、「きらめけ」でそのテンポを維持して、最後の「愛のメッセージ」の所で、リタルダンドして、もとにもどすと音楽的に

まとまると思います。ところで、2番が歌い終わって、ふたたび「心燃える」に戻るところは、リタルダンドしないで、むしろテンポをさらに上げていくつもりで歌うと効果的だと思います。最後のレントの「届け愛のメッセージ」は願いを込めて大切に歌ってください。そもそも、この歌は、いつでもどこでも気軽に口ずさめるように作ったものですから、主旋律のみを斉唱し、充分曲に親しんでみてください。そのあとで混声3部合唱に取り組んでいけば、充分に曲の持ち味が出るでしょう。

「巣立つ時に」

この曲、詩の中では、町をこよなく愛した一人の男がその町を巣立ってゆく時に、郷愁にひとりながら、想い出をたどり、人々への感謝の気持ち、そしてまた、いつまでもそのままであってほしいという気持ちをうたっています。ゆったりとしたテンポで、しみじみと心にしみいるように歌ってください。前半の16小節は、言葉がしっかりと伝わるようにはっきりと発音してください。アルトと男声のハミングの部分は、二声が溶けあうように、そしてソプラノとのバランスを考えた上で、少し大きめに歌ってもよいと思います。「時は流れ」からは、動きをもって、波打つように歌うと、迫ってくるものが感じられると思います。「心のふるさと」からは、混声四部になります。ハーモニーを充分意識して歌ってください。♩からのrit.そしてAllargandoは、ドラマティックに音楽をすすめていけるように、そして最後のffをもっていってください。ひとには皆、巣立つ時がやってくる。

学校を卒業する、その土地を離れていく、親のもとから独立する・・・さまざまな別れがある。そんな状況におかれているひとが、この歌をうたいながら自分の気持ちとダブらせて心動かしてくれたら、どんなにすばらしいことかと思います。

「そのままの君で」

それは、仲の良い親友への別れ際のメッセージ、あるいは、恋人との訣別の詩にも聞こえる。どうぞ自由なイメージをふくらませて歌ってください。雑談になります。私がうたを作るときは、メロディと言葉が同時に湧いてくるようにイメージしていきます。何かに感動した時などすかさず五線に向かっていきます。今回この曲も、心の底から湧き出てくるものを探りながら、なんとかできあがりしました。さて、演奏する上で意識して頂きたい所を順に述べていきたいと思います。前奏の4小節は、特に内声のB-H-C-Des-C-Cesという不安定な音の動きが湧き出てくるものを探りながら弾いてください。曲は大きく分けると2つの部分（前半1～25小節、後半26～44小節〔くりかえしあり〕）からできています。前半で注意すべき点は、跳躍音程が多いので、特に低い音から高い音へ跳んだ時に上の音のピッチが下がらないように気をつけて下さい。またクロマティック（半音階的）進行が随所に出てきます。音程をきちっととらせて下さい。後半で注意すべき点は、「そんな仲間であってほしい」の所から大きなフレーズになるので、短いブレスでたくさん息を吸って、たっぷりと豊かに歌えるように心がけて下さい。全体的な曲のムードとしては、さりげなく歌う中にも言葉の抑揚を生かして、気持ちのこもったうたになればと思っています。以上がわが中学校の生徒に歌わせてみておおよそ気付いた点です。音取りをして30分もしないうちに、すばらしく声を出してくれるところを見ると、生徒の心情に無理なく溶け込んでいけるように思えました。

「はばたこう明日へ」

「先生、こういう眼のうるうるしちゃう曲ばかり作らないで下さいよ！」というのが授業で歌った時の生徒の第一声でした。今回の作も、「別れそして明日へ」といった内容の詞だから、そう言われるのもごもっとも。全体の構成は、「A」→「B」（ブリッジ）→「C」→「D」→「B'」（ブリッジ）→「C'」「D'」「D''」となっています。「A」の部分は、しみじみとたっぷりめに。「B」は、次の部分への橋渡し。「C」の部分から少

しテンポをあげますが、言葉をはっきりと。『D』の部分は、主旋律が跳躍音程で、多少音がつかみにくいですが、そのメロディをしっかりと効かせて、対旋律（ルールー）は、あくまでも脇役であるように。『D』そして『D'』と曲が盛り上がるにつれ、テンポも少しずつ速くなっていきます。その味つけ加減が表現の善し悪しを決めるように思います。いろいろとテンポ、アゴーギクなど工夫してみてください。曲の流れを何かにたとえるならば、それは、チャールダーシュのようにできています。最初は、悲しげに切々と歌い、曲が進むにつれて、暗かった空からひとすじの明るい光がさしてくるかのよう希望に満ちた気分で歌い終われば、もう言うことはありません。

「友がいるなら」

私の作った過去のいくつかの曲は、どうも“別れ”をテーマにしたものが多く、同傾向の内容に凝り固まっていた。しかし、この曲はそこから少し脱却できたような気がする。明るくさわやかで希望に満ちたものを作ろうと必死にイメージを沸かせて作ったものだが、なかなか苦労は絶えなかった。これだけ悩んで作ったのは初めてである。今まではだいたい詩とメロディを同時進行で作ってきたが今回はメロディが先行して、それにあとから詩をつける形となった。電車で揺られながら、自転車に乗りながら、風呂の中でメロディを口ずさみながら・・・という具合に四六時中あーでもない、こーでもないと考えて詩をつけた。そういった意味では、今までの自作と比べて自然に生まれた純粹培養のものとは、ひと味ちがった曲風に思える。まあそんなわけで、曲の生まれた背景は、実にフェジーなものであった。さて本題に入るが、この曲は、{前奏}（4小節）→A（12小節）→A'（12小節）→B（10小節）→A"（12小節）→B'（12小節）といった構成でできている。中学生（特に1年生の男子）にとっては、この曲は歌いだしは、音域が低く、音程が定まりにくいと思われるが、ユニゾンなのでなんと男女とも調和のとれた声で歌いたい。また、全般的には言葉のイントネーションを生かし、躍動感あふれる語感で表現したい。曲の山場で（Bの終わりとB'の終わりの部分）に向かって、cresc. は特に書かなかったが、自然と盛り上がっていきけるような歌の勢いがほしい。全体的にはさわやかに気負わず歌い通せば曲の味が出てくると思われる。

「あなたへのレクイエム」

この曲は、'92年8月に亡くなられた西山英二先生を偲んで作ったものである。先生には、たいへんお世話になっていたので、何かの形で自分の思いを残したいという一心で曲を書き上げた。果たしてこの歌を初めて耳にする生徒は、どう受け止めるだろうか。ある者は、自分のことを可愛がってくれたおじいちゃんのことを想像するかもしれない。またある者は、尊敬していた恩師のことを想い出すかもしれない。そのあたり、ご指導される先生には、個々の生徒の心情に自然とフィットする解釈のもとでこの歌をうたわせて頂ければ幸いである。さてこの曲の構成は、前奏（4小節）→A（16小節）→B（14小節）→C（8小節+16小節）→後奏（3小節）となり、締めて61小節でできている。（偶然であるが、西山先生は61歳で永眠された）この曲を歌う上で、注意して頂きたい点を次に列記する。

- (1)16分音符のリズムについて言葉が、特にぼやけないようにはっきりとした発音と音程に気を付けたい。
- (2)「もうあなたはいない・・・」の部分は、柔らかい声で、十分に響かせてうたいたい。
- (3)「だからあなたが・・・」から転調していく部分は、十分に歌い込んで、芯のある声で、意志をもった表現力できかせたい。

この曲は、個人的な思い入れの強い曲であるが、それとはまったく別の境地で、一つの合唱曲として、うたを楽しんで味わって頂ければこの上ないことである。

「勇気をください」

○風薫る5月のある日曜日、私は久しぶりに実家にもどって、中高時代の思い出である古い本類（いまだにとってある）を整理した。そうしたところ、懐かしいものがたくさんでてきた。それらのノートやアルバムなどを見ていたら、ふとあの頃にタイムスリップしてしまったかのように、鮮明にその頃の自分が浮び上がってきた。その時の‘思い’がこの曲のモチーフとなり、最初に詞ができ、次にふしがついた。

○ありふれたメロディ（？）で典型的な16小節の二部形式（AA'BB'）の曲がある。さっそく自校の生徒（中学3年生）に歌わせてみたところ、1時間の授業で音取りができ、3部にきれいにハマれた。生徒の感想もなかなか好評であった。今までの自作曲に比べシンプルさが受けたのか、はたまた、4ビート、8ビートといったフォーク調のメロディがよかったのか、さだかではないが、一つ言える事は、詞の中で訴えたいことが彼らにも共感できて、自分たちの心情にも置き換えることができるようだ。

○演奏上の注意点は2つ。一つは、八分音符が続きプレスをとりにくい所「♪いつのまにか～あついおmoi」の歌い方であるが、言葉の抑揚を生かして、単語の区切りをつけながらノンプレスでいきたい。したがって、息が続かない時は、カンニングプレスで歌わせてみて下さい。もう一つは「♪ふたたび心によみがえり」の部分、曲の山であることを意識して豊かな声量でハーモニーを感じながら歌わせて下さい。決して乱暴にならないように。全体的には、70年代のフォークソングを歌うようなつもりで、気取らない心持ちでトライしてみてください。

「リフレイン リグレッツ (Refrain Regrets)」

それは1995年初夏、修学旅行中のバスの中で、モチーフが生まれ、イメージが広がっていった。うとうとと山道に行くバスに揺られながら、後ろから聞こえてくる中学生の会話を耳にしているうちに、彼らといつのまにか心の中で同化してしまし、一連の詩が湧き出てきた。それがこの曲の冒頭の部分である。Refrain Regrets は私が勝手に作ってしまった和製英語であるが、“後悔をくりかえす”とでも訳したらよいだらうか。つまり子供から大人へと成長してゆく過程では、後悔することが多々ある。それをくりかえしているうちに、自分の生きかたや夢が見えてくるのではないか、ということを含んだ曲名なのである。曲の構成は、前奏（6小節）+ A（8小節）+ B（9小節）+ C（8小節）+ C'（8小節）+ [後奏4小節] でできている。★前奏は、曲のイメージを決定づけるだけの重要なポイント、明るく前進的なテンポで張りのあるトーンがよい。★Aの部分：4小節目の‘いま’はシンコペーションをしっかりと意識して、メリハリを効かせてうたいたい。★Bの部分：女声2部でうたう所、リズムどおりカッチリうたうよりも、スピード感のある歌いかたで、流してうたう方がシックリいってよい。また、男声の主旋律部分も同様に、リズムにのって、重たくならないように。cresc. もできるだけ効かせて。★CC'の部分：ホ→ホの跳躍音程が連発するが、なるべく重たくならないように、rubato せずに前に行きたい。☆全体的に軽快なテンポで、さわやかに、さらりと流してうたいたい。食事にたとえるなら、メインディッシュというよりも、食後のデザートのように後味が爽快でありたい。

「明日のために」

つらい時、苦しい時には、ふと立ち止まって自分の過去を振り返り、今まで生きてきた道のりをたどることで、明日を生きるための心の支え、寄所をもう一度確認してみよう・・・こんな気持ちを歌に託してみました。冒頭のアカペラのハミングは、過去の思い出を回想するかのようになり、しみじみと歌い始めます。思い出をたぐり寄せたところでピアノ伴奏が入り、歌詞がメロディに乗り、なめらかに連なってゆきます。1回目の♪もう一度思い出そう・・・からはPij mossoで躍動感のある歌声で。さらに冒頭のメロディにピアノ伴奏が加わり、LuLuLu, LaLaLaで歌う部分は勢いをもって生き生きと表現していきたいところです。後半はこの曲のタイトルのとおり明日のために（あしたを生きるために）決然と力強く歌っていけば、この曲の味が存分に出来るのではな

いかと思います。

「自分らしく」

今年（1996年）の2月、その頃私は、中3の学級担任として、生徒一人一人がそれぞれ自分の進路に向けて、努力している姿をじっと見守っていました。その時ふと浮かんできたもの、それが、‘誰もが夢を追いかけてる’で始まる4行の歌詞。それぞれ子どもたちが、自己実現（夢）のために、一步一步前進している姿に心打たれ、これからの人生を歩んでいく彼らへの応援歌のつもりでつくりました。詩人の金子みすずさんの詩の一節に、“みんなちがって、みんないい”というくだりがありますが、「自分らしく」の歌詞の奥にもそれと同じような意味合いのようなものがあります。また、暮らしに流されず、その時その時を本気で生きてゆくことで、自分らしさを見つけ出していってくれたらという願いが、うたの中に込められています。

「明日を夢見て」

今回、私にすばらしい詩を提供してくれたのは愛知県安城市安城南中学校3年生の皆さんです。当校とは、かれこれ足掛け3年もの間、おつきあいをさせていただいています。そこでは音楽科の力もさることながら、生徒会が中心になって毎年すばらしい全校合唱に取り組んでいます。その際、歌われる曲に私の作ったものが毎年のように選ばれているとのこと。そこで2年前、3年生が修学旅行で東京に来た時に、私の勤務校まで全校合唱のビデオテープをわざわざ持ってきてくれました。以来、交流が始まり、昨年と今年と修学旅行の際、合唱の夕べを催し、私の歌をたくさん歌ってくださり、その会に招待していただきました。その流れからきて、今年はずっと趣を変えたものにしようとの考えで、生徒の皆さんで作った詩に私が曲をつけて、それを学年の先生方の模範合唱で生徒に聴かせ、そのあとすぐにパート練習を行い、最後には、全体で一度合せてしまおうということをやったのけてしまいました。「明日を夢見て」という曲は、このような過程をもって生まれました。まさに中学校の現場から生まれたシャキシャキとした合唱曲です。この詩は‘未来’とか‘夢’といった言葉をキーワードにしてイメージをふくらませていき、たくさんの生徒が作ったものを一編にまとめてできあがったそうです。詩の持つムードに誘われて、私としては、今までにない流れるような伴奏形と優美なメロディ（自画自賛しすぎ?!）になりました。詩の気持ちをかみしめながら、さわやかな気持ちでうたって下されば、自ずとこの曲の味が出てくるものと思います。最後になりましたが、安城南中学校の校長先生をはじめとして、平成8年度第3学年所属の先生方、社会科の加藤正彦先生には、私のない力を掘り起こしていただき、一つの作品として仕上がったことに感謝の気持ちを表したいと思います。またこの曲がたくさんの学校で歌われることを祈ってやみません。

「友 — 心と心 — 」

思春期の子どもたちにとって、悩みを打ち明けられる一番の相談相手は、親でも教師でもなく、友だちではないでしょうか。とはいえ、最近の子どもたちは、日々ハードなスケジュールをこなしています。授業が終わると清掃、学活。放課後は部活動へと。そして休む間もなく塾や習い事、家に帰っても学校の宿題だけでなく、塾の宿題に追われ、休日といえども、塾の公開模擬試験があったり……。このような忙しさの中では、子どもたち同士でさえ、十分なコミュニケーションがとれなくて、本当の意味の‘心の友’のような相手がいる子も少なくなっているように思います。本当の友だちとは何だろう？と子どもたちにこの作品を通じて考えてもらえればと思いつつ、作品を手掛けてゆくことにしました。風戸強氏のムードある詩に感化され、不思議な力が湧き上がり、メロディがスラスラと浮かんできました。私としては、めったにマイナー（短調）の曲など書くことかないのですが、詩のイメージからこのような前奏になりました。うたい始めの8小節は、情を込めて、子音をはっきりめに。「元気・・・実は・・・今日は・・・」の所は、言葉が電話口で少々つまってる様子で、メロディも

その感じを出すために休符を途中におり混ぜてみました。哀愁が感じられるようなsotto voceでうたってみてください。次にマイナーからメジャーに転調する部分のcresc.ですが、やりすぎずに、できるだけ自然に、心の温かみが増していくような気持ちでうたってください。間奏の部分のピアノは、メジャーとマイナーが入り交じっていて、不安定な心の様子を表しています。一番最後の山の部分は、すっきりと盛り上げて、poco rit.でうまくまとめて下さい。最後に、すてきな詩を提供して下さい風戸強氏に感謝の意を表します。

【出典】：月刊誌「教育音楽」（中学・高校版）別冊付録・・・音楽之友社
：全日本合唱教育研究会（第20回）東京大会、大会誌

以上、12の作品を歌うにあたってのポイントを列記してみたが、これらの文章を改めて振り返ることで、自分自身、それぞれの曲に対する思い入れを再確認することができた。これからもまた、目の前にいる生徒と共に生活していく中で、人の機微にふれ、それを私なりの感性で表現していきたいと思う。

<作 品>

		(曲名)	(出典)	(出版年)	(出版社)	(コード番号)
1.	混声三部合唱	作詞及び作曲 「マイ バラード」	『美しい季節』 P14~P16	'87	音楽之友社	CD録音 Eタケ-VICG56088
2.	"	" 「巣立つ時に」	『海のように』 P54~P57	'88	"	" " VICG56086
3.	"	" 「そのままの君で」	『そのままの君で』 P46~P50	'89	"	" " VICG56024
4.	混声二部合唱	" 「流れゆく雲を見つめて」	『若い翼は』 P99~P103	'90	教育芸術社	" " VICG56024
5.	混声三部合唱	" 「はばたこう明日へ」	『友がいるなら』 P23~P27	'91	音楽之友社	" フォンテックEPCD3070
	混声二部合唱	" 「友がいるなら」	『友がいるなら』 P14~P19	'91	"	" " EPCD3071
6.	混声三部合唱	" 「ほくらの未来」 新訂	『私たちの合唱曲集』 P4~P6	'92	教育芸術社	" Eタケ-VICG56085
7.	"	" 「あなたへのレクイエム」	『輝きと光の中へ』 P66~P71	'92	音楽之友社	" フォンテックEPCD1554
8.	"	" 「笑顔を忘れてしまった君に」	『Chorusへの招待』 P125~P133	'93	教育芸術社	" Eタケ-VICG56087
9.	"	" 「勇気をください」	『LOVING YOU』 P17~P19	'94	音楽之友社	" フォンテックEPCD1961
10.	"	" 「Refrain Regrets」	『サバンの風』 P14~P17	'95	"	" PPCD2147
11.	"	" 「明日のために」	『THE CHORUS』 '96 P28~P34	'96	教育芸術社	" コソエ7 GS-10964
	"	" 「自分らしく」	『THE CHORUS』 '96 P22~P27	'96	"	" " "
12.	"	作曲 「明日を夢見て」	『友一心と心一』 P14~P17	'97	音楽之友社	JPI-045 KJCD0003
	"	作曲 「友一心と心一」	『友一心と心一』 P27~P27		"	" " "